

## 日米高校生がまちづくり議論 陸前高田でサミット



気仙地区と米国の高校生が交流する「日米高校生サミット in 陸前高田 2015」(NPO 法人陸前高田市支援連絡協議会 Aid TAKATA 主催)は 11 日、同市高田町の市コミュニティホールで開かれた。両国の高校生が市内を巡り「ノーマライゼーションという言葉のいないまち」をテーマに、誰にも優しいまちづくりを考え合った。

独立行政法人国際交流基金(東京都新宿区)の事業で来日中の米国高校生 31 人と、高田高と大船渡高の生徒 25 人が参加。グループに分かれ陸前高田市内の 8カ所で高齢者や身体障害者、外国人などが不便に感じる所や問題点をそれぞれ探した。

高校生は身ぶり手ぶりを交えながら意見を交わし、グループごとに課題を挙げ、解決策を検討。「スーパーで外国語のアナウンスも流してほしい」「ドアが外開きで体が不自由な人は使いにくい。引き戸にするべきだ」などと発表した。

ペンシルベニア州のノースベン高のジョージアナ・エックさん(17)は「陸前高田で共に時間を過ごせて楽しかったです」と日本語でお礼を述べた。

大船渡高1年の佐藤玲花(れいか)さんは「一緒に課題を探す中で、文化の違いを感じるなど発見があった。課題を見つけるさまざまな視野を持つ勉強になった」と刺激を受けていた。

【写真＝陸前高田市内を巡って感じた不便な点や課題を話し合う日米の高校生ら】